

特集論文の暫定的な作成フローの策定

2022 年 3 月 7 日

編集委員会

1. 作成フローの策定理由・詳細

- ・ 現状、特集論文は編集委員会でテーマを定めたのち、執筆候補者に個別に依頼し、編集委員会で校閲したうえで、掲載してきた。
- ・ しかし、研究大会でも公開シンポジウムを実施するなど、旬のテーマを設定していることから、研究大会とノンプロフィット・レビュー（以下、NPR）で異なる 2 つのテーマを設定しているうえ、研究大会の記録や報告にかかわる論考を NPR に所収できていない。
- ・ 日本 NPO 学会として取り上げる旬のテーマを一致させ、また、研究大会の公開シンポジウムの記録等を NPR に所収し、会員利便を向上させるため、執行部および大会実行委員会の了承のもとに、特集論文作成フローを暫定的に以下のように実施することとした。
 - ① 次年度以降のルーティーン化を見据えて、今大会では少なくとも公開シンポジウムの記事化（以下、公開シンポジウム記録）を実施し、可能であれば登壇者による論考を作成し、NPR に掲載する。
 - ② 公開シンポジウム記録は映像などをベースに事業者が NPR の体裁にまとめたものを、シンポジウムのコーディネーターやモデレーターが編集し、登壇者が内容確認し、編集委員会の校閲を経て作成する。
 - ③ よって大会企画委員会が公開シンポジウムへの登壇をコーディネーター・モデレーターや登壇者候補に依頼する際に、公開シンポジウム記録の作成に関与いただくことも併せて依頼する。
 - ④ 登壇者による論考が掲載できるかは、公開シンポジウムの企画内容や登壇者の意向に依存するため、公開シンポジウムの企画内容が決定し次第、論考執筆を登壇者に依頼するかを大会企画委員会が決定する。
 - ⑤ 大会企画委員会が登壇者による論考を NPR へ掲載したほうがよいと判断した場合、登壇依頼をする際に、登壇者候補に論考を執筆可能かも合わせて確認する。
 - ⑥ 原稿不揃いの場合は論考掲載を見送ったほうがよい企画などがあると想定されるため、登壇者の意向を検討のうえ論考執筆を依頼するかを企画委員会が最終判断する。

- ⑦ それ以降の執筆依頼や原稿校閲にまつわる事務などは、編集委員会が実施する。
- ⑧ 今大会の大会企画委員にはオブザーバーとして編集委員会委員が加わり、上記の役割分担の補佐を実施するとともに、次年度以降のルーティーン化を検討する。
- ⑨ 編集委員会では現在編集実務を行っているレタープレスを第一候補としつつ、公開シンポジウムの映像記録などをベースに文字起こし NPR の体裁での記事化まで可能な事業者を検討する。

2. 承認いただきたい事項

- ・ 上記の通り、特集論文の暫定的な策定フローを策定する。

以上